

第3回 到津の森公園将来ビジョン検討会議 議事録

- 1 開催日時 令和5年12月19日(火) 13時30分から15時30分
- 2 開催場所 北九州市役所本庁舎12階121会議室(北九州市小倉北区内1-1)
- 3 出席者 南 博(座長)、岩谷 かおり、西田 貴史、野田 亜矢子、村上 嗣英、山田 恵子
- 4 会議概要 議題「将来ビジョンの原案について」に対し自由討議
- 5 会議経過(発言内容)
 - ワークショップで皆さんの意見を聞く機会があることによって、園に対する愛情やパッションが根強く伝わってきたことが好印象であった。参加者は情報発信や園の強みなどについて、みなさんが認識されていないようなことを何度も述べられていた。それらをしっかり言語化してまとめていくことが我々の役目であり、やるべきことであると痛感した。しっかり役目を果たしていきたい。
 - 基本理念は園の根幹をなすものと考えられる。現在の基本理念は「市民と自然とを結ぶ「窓口」となる公園をめざす」であるが、今回あらためて基本理念を考えることとしたのは、もともとの基本理念をこの20年間で到達できたからなのか、動物園を取り巻く環境、情勢が大きく変わったからなのか、変える理由を書くべきである。もともとあった基本理念を引き継ぎさらに発展させるのであれば、その旨を書いたほうが今までの皆さんの努力がそこに入ってくるので良いと思う。
 - 現行計画の検証をしていることはとても良いことである。しかし、書きぶりがサラッとしており、検証がビジョンにどのようにつながっているのかが見えづらいため、見せ方や説明方法を検討してほしい。
 - 今現在、市で新しいビジョン(総合計画)策定が進み、市政改革、行財政改革に関する抜本的な検討が進んでいる。市の新ビジョンにある3つの柱「稼げるまち」「彩りあるまち」「安らぐまち」のどれにも到津の森公園は貢献できる。企業が本市に進出するにあたり、従業員が楽しく快適に過ごせることは検討の際の材料の一つとなるため、本市に良い動物園があることは大切なことで、「稼げるまち」に直接的・間接的に関係してくる。そして、「彩りあるまち」「安らぐまち」についても直接的に関わってくる。そういった推進に貢献する施設であり、そのためのビジョンであるということを堂々と説明し、市のビジョンにも整合しているということを打ち出していきたい。
 - 「取組姿勢」がわかりづらいので、ビジョンの位置付けと今後より具体的な検討を行っていくということを明記することが必要だと思う。
 - どういう方向に向かっていくかを示すのが今回策定するビジョンであり、具体策については、このビジョンに基づいて計画・取組に落とし込んでいくということになる。その辺りがわかるよう、今後、ビジョンをどのように活かしていくのかをわかりやす

く表現したい。

- もう少し基本理念はすっきりとコンパクトにしたいと個人的には思う。
- この基本理念が行政的な文章にしか出てこないのであればこれぐらい説明的な文章でも問題はないが、一般の方が目にするようなものなら、キャッチコピーのような目にしたときに分かりやすい文言が必要。
- 基本理念がホームページや色んな冊子等に出てくるものであれば、キャッチーで短いものが良いと思うが方向性は良い。
- 「未来へつなぐ」というところの意見が出ていたと感じている。
- 効果的に広く、市民、市外の人に伝わりやすいものがないのかといった観点で検討してほしい。
- 今のボランティア活動が20年後も続くよう、人を巻き込まないといけないと思う。今は経済状況も厳しくボランティアをしてくれる人が少なくなっている。これを伝えていって、もっとみんなにボランティアに入ってもらうためにはどうすれば良いかを考えていた。もしボランティアがなくなったら園は困ると思う。
- 動物園は施設もそうだが、まわりの環境変化にあわせて変わっていかないとはいけないが、基本理念というのは、大きく変わらないもの、不変的なものが根幹で、最終的にきちんとした動物園を維持し続けるためには、枝葉が多少変わることはあっても、根幹はしっかりしておかなければならない。動物園はこう変えたいからといってすぐに変えられるものではない。根幹がありそれに基づいて変わっていくというようにしておかないとできあがるものが美しくない。
- 取組姿勢やビジョンの位置付けをきちんと説明する必要があるように思う。基本方針1の「市民とともに歩む公園」にしても、これからどのように支えていただける形を維持していくかというのは本当に切実で、重要な問題である。そういった部分は、今後たてられる計画にしっかりと実行性のあるものを位置付けていただきたい。
- 「市民とともに歩む公園」は今の根幹である。基本方針1から5は並列とはいいつつ、基本方針1にそれが位置付けられているということは、到津の森公園のこれまでや、これからのことを意識された組立の方針だと思う。
- 基本方針5の「いつでも未来を見据えた運営」は、継続的にやっていくことだと思う。これは先ほどの行財政改革とも関係のあることだが、公園管理課（建設局）としては、やはりそこを持続的な形で続けられるように運用を求めていただかなければならないというのが我々検討会議の立場での意見である。
- 公立の動物園、特に到津の森公園はサポーターが支えているというイメージが強い。公立の動物園は大なり小なり市民に愛されていないと、どれだけ入園者数があったとしても入園料はとても安いので、それだけでは絶対成り立たない。そのためには、税金を動物園にこれだけ使っても良いと市民に思っただいただかなければならない。市民に共感してもらおう内容を盛り込むことは絶対に必要だと思う。